



香道 秋農光 附録香志

折にふれ何かはあわれならざらん
 とはいえど、琴詩酒の三つものは世に
 似なく、面白き事のかぎり成けらし。
 しかはあれど、時の宜しからざるの愁い
 なきにしもあらず。香の道の至れるや
 雪月花の時、或いは独りあり、或は客あり。

香道秋農光 附録香志

大枝流芳編 享保十四年 四卷四冊 版本
 大阪府立図書館 所蔵

香道秋農光序

折にふれ何かはあわれならざらん
 とはいえど、琴詩酒の三つものは世に
 似なく、面白き事のかぎり成けらし。
 しかはあれど、時の宜しからざるの愁い
 なきにしもあらず。香の道の至れるや
 雪月花の時、或いは独りあり、或は客あり。

又女童の翫びにも興あることにして、
 皆ことたれるの物にてぞといひし
 らふ折から、大枝氏の何がしとてかくれ
 住める人のうちうち集めおき侍りける巻々
 を携え来たれり。これを開けば始めに
 香道に用ゆべき調度をくわしく図し、
 また、中古よりして名ある組香に猶

新の奇なる組香などさまさま
 あらわし附するに、唐の文までも、
 ねもごろ(懇)に考え出たり。誠に香道
 に耽る人の為たよりする事
 至てふかし。其の書を名づけて『香
 道秋乃光』とぞいうなる。是は、此の
 みち(道)に名ある御家の歌に

香道火の光

し終ふとぞさなつとどいよささの
う狐姑(こ)題(と)とれ予(よ)序(じ)
してんて狐(こ)請(こ)さは我(わ)乃(の)ふみ
わづとわづと辞(じ)しけりあはれど
猶(なほ)いさすやらみとそ先(ま)ちあふ
まにわづとわづとわづと彼(か)雲(う)乃(の)
上(う)れ星(ほ)の林(りん)と見え菊(きく)や秋(あき)の

光(ひかり)り世(よ)に匂(にお)うらん」とあるの謂(い)
を書(か)きつらねて、是(こゝ)が始(は)めにかぶ(冠(かんむり))らし
むるのみ。

野衲素雲堂

吟阿

よれるとぞ。さはいえど、いまたこの
はしを始めて題するなし。予に序
してんことを請う。「こは我及ぶ所に
あらず」とかたく辞し侍りけれど、
猶ひたすらせち(切)にすすめける
ままに、おこがましなから「彼の雲の
上の星の林と見し、菊や秋の

光りと世に匂うらん」とあるの謂い
を書きつらねて、是が始めにかぶ(冠)らし
むるのみ。

野衲素雲堂

吟阿

凡例
 一 凡香道に用ゆる所の調度品多しといえども、ここに図する七種の具は古(いにし)えより用い來たれる要具にして、欠くべからざるものなり。世上流布する所の具は、志野、米川の二流の形のみなり。今、ここに書き著す所は、此の道にやんごとなき御家の法を伝え聞きし其のかたち、寸法までを

香道に用ゆる所

香道に用ゆる所

凡例

一 凡そ香道に用ゆる所の調度品多しといえども、ここに図する七種の具は古(いにし)えより用い來たれる要具にして、欠くべからざるものなり。世上流布する所の具は、志野、米川の二流の形のみなり。今、ここに書き著す所は、此の道にやんごとなき御家の法を伝え聞きし其のかたち、寸法までを

一 圖して秘ふれ人又い遠き國の人までも
此具を求め作り便しとする者なり
組香の立物及び盤の圖を以て
是又求むべし人れみ便し
一 組香古より志野家に用い來たれり
十組は「十炷香」「花月香」「小鳥香」
宇治山香」「郭公香」「系図香」「小草
香」「焼合香」「源平香」「鳥合香」也

一 此の先、世に傳ふる『香道秘傳』及び『十
炷香の記』等にくわしければ、今ここに著わ
さば、米川家の十組は、右の十組のうち、
鳥合香、郭公香、源平香、のみ三つを除
きて「名所香」「矢数香」「競馬香」の三つ
を入れたり。此の三組も世に多くしれる所
なれば、また此の書にもらし侍る。
一 始めに著す所の十組は中古の人の組

図して、初心の人、または遠き國の人にまでも

此の具を求め作らん便りとする者なり。

一 組香の立物及び盤の図等をの(載)するは、

是また求め作らん人のために便りす。

一 組香、古えより志野家に用い來たれる

十組は「十炷香」「花月香」「小鳥香」、

「宇治山香」「郭公香」「系図香」「小草

香」「焼合香」「源平香」「鳥合香」なり。

香道初集の巻目
 をけり名高く面向と組を探ひのせ
 且つわつと組香の近頃人々の組
 ともあひ集て余が組の前の組香は
 編新十組とてこれを載り新組香
 の後篇と香道に故実及び新組香
 を著して此の梓に行わんとはかる。
 一 卷末には、もろこし(唐土)の書に載せる所の
 香木の出所、香道に用る調度の書

来源を考へ香志と号し、漢土にも
 此の翫びあるの趣きを著して好事の人
 の為に儻然子(しようぜんし)が集めしものを附す。
 享保壬子歳五月中浣
 大枝流芳誌之
 押印

おける名高く面向(おもしろ)き組を撰ひのせ
 り。次にあらわす組香は近頃人々の組
 お(置)けるを集めて、余が組める所の組香を
 添え、新十組となして、これを載せり。なお、此の書
 の後篇(編)に香道の故実及び新組品々
 を著して、追つて梓に行わんとはかる。
 一 卷末には、もろこし(唐土)の書に載せる所の
 香木の出所、香道に用る調度の

来源を考え、「香志」と号し、漢土にも
 此の翫びあるの趣きを著して好事の人
 の為に儻然子(しようぜんし)が集めしものを附す。

享保壬子歳五月中浣
 大枝流芳誌之(これをするす)

押印

香道秋農光上

香道秋農光上

目錄

上卷

香道具立物盤之圖

中卷

中古組十品

花軍香

吳越香

古今香

三夕香

香道秋農光上

香道秋農光上

目錄

上卷

香道具立物盤の圖

中卷

中古組十品

花軍香

吳越香

古今香

三夕香

香道集の目録

下卷
 蹴鞠香
 六儀香
 鬪雞香
 鷺香
 星合香
 焼合花月香

新組十品
 根合香
 随蝶香
 巢立香
 初音香
 新玉川香
 篇突香

附録
 香志一卷
 曲水香
 玉橋香
 関守香
 子日香

續編千代表秋目錄
 全部四冊
 追つて合梓行
 一 中古より有る香の組香惣目錄
 一 志野棚のかざりの圖説
 一 香元かざりつけの圖

香道集の目録

蹴鞠(しゅうきく)香 鷺香

六儀(りくぎ)香 星合香

鬪雞香 焼合(たきあわせ)花月香

下卷

新組十品

根合香 初音香

随蝶香 新玉川香

巢立香 篇突(へんつき)香

附録

香志一卷

曲水香 関守香

玉橋香 子日香

續編千代表秋 目錄

全部四冊
追つて合梓行

一 中古より有り来たる組香惣目錄

一 志野棚のかざりの圖説

一 香元かざりつけの圖

(續編予告:本編の目錄と微妙に異なる。)

一 香諸道具之名目
 一 六国之香の事并十徳
 一 香道宗匠
 一 香席け友の事
 一 香道三十二ヶ條之目録
 一 名乗紙認(したため)やう(様)
 新組香三十品
 富士香 撰虫香 鷹狩香

三曙香 螢香 賭弓香
 定考香 初雪香 花守香
 續舞樂香 紅葉香 小倉香
 拾貝香 扇合香 繪合香
 忍音香 長寿香 鬪草香
 新鬪鷄香 投壺(とうこ)香 鴛鴦(えんおう)香
 八橋香 匂集香 難波名物香
 新花月香 詩句香 花名所香

- 一 香諸道具の名目
- 一 六国の香の事 並び十徳
- 一 香道宗匠
- 一 香席法度の事
- 一 香道三十二ヶ條の目録
- 一 名乗紙認(したため)やう(様)

新組香三十品

富士香 撰虫香 鷹狩香

- 三曙香 螢香 賭弓(のりゆみ)香
- 定考(こうじよう)香 初雪香 花守香
- 續舞樂香 紅葉香 小倉香
- 拾貝(しゅうばい)香 扇合香 繪合香
- 忍音香 長寿香 鬪草香
- 新鬪鷄香 投壺(とうこ)香 鴛鴦(えんおう)香
- 八橋香 匂集香 難波名物香
- 新花月香 詩句香 花名所香

香道秋農光上

金鯽香 音信香 羽衣香

目錄終

香道秋農光上



大枝流芳門人

大枝流芳著

香道具立物の圖

香筋の圖



香道秋農光上

金鯽(きんせき)香 音信(おとずれ)香 羽衣香

目錄終り

香道秋農光上

大口含翠先生門人

大枝流芳著

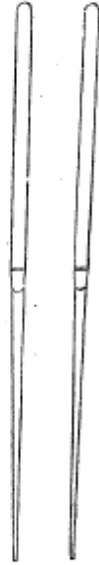
香道具立物の図

香筋(きょうじ)の図

[図]

烏木を以て作るべし。長さ五寸かたち
圖のごとし。

火筋之圖



惣長さ五寸柄二寸七分穂二寸三分

金銀等を以て作る。柄は紫檀、或は
烏木にて作るべし。

香鍬之圖



長さ三寸五分金銀等を以て作る。面(おもて)

烏木(こくたん)を以て作るべし。長さ五寸かたち
圖のごとし。

火筋(こじ)の圖

[圖]

惣長さ五寸、柄二寸七分、穂二寸三分、

金銀等を以て作る。柄は紫檀、或は
烏木にて作るべし。

香鍬(はいおし)の圖

[圖]

長さ三寸五分、金銀等を以て作る。面(おもて)

名物類ノ要

少一肉ありて裏は平らなり。模様
の好みに随うべし。其のかたちは笏(しやく)にひとし。

銀鑷之圖



金銀にて作る。長さ三寸五分。

火味之圖



金銀にて作る。寸法定まれる法なし。
世上通用のごとし。

鶯之圖

名物類ノ要

に少し肉ありて裏は平らなり。模様
の好みに随うべし。其のかたちは笏(しやく)にひとし。

銀鑷(鋏)(ぎんはさみ)の圖

[圖]

金銀にて作る。長さ三寸五分。

火味(ひあじ)の圖

[圖]

金銀にて作る。寸法定まれる法なし。
世上通用のごとし。

鶯(うぐいす)の圖

銀と赤銅を以て半ばよりいもつき
ゆへに寸は志野流にひとし

羽箒之圖



[圖]

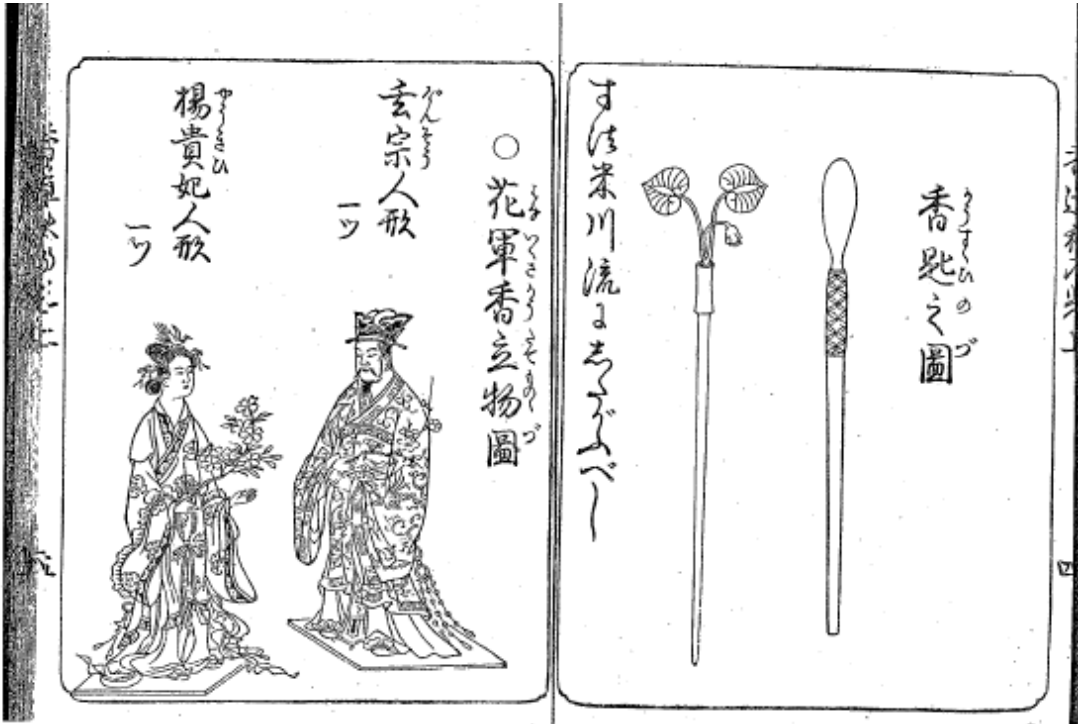
銀と赤銅を以て半ばよりいもつき(芋継)に
作るべし。寸法、志野流にひとし。

羽箒(はぼうき)の圖

[圖]

寸法かたち志野流にひとし

此外香道具品多しといえども、この
七つを要具とす。米川家には香匙(こうすくい)
を以て火味にかえ、七つの道具となせり。
当流は香匙を用いず。然れども組香
などの折には、便りよきを以て用ゆるもまた
くるしからず。もと七つの道具といえる
名目は当流にはあらざる事なりとぞ。



楊貴妃人形
一ツ

玄宗人形
一ツ

○花軍香立物圖

寸法米川流にしたがうべし

香匙之圖

楊貴妃人形
一ツ [図]

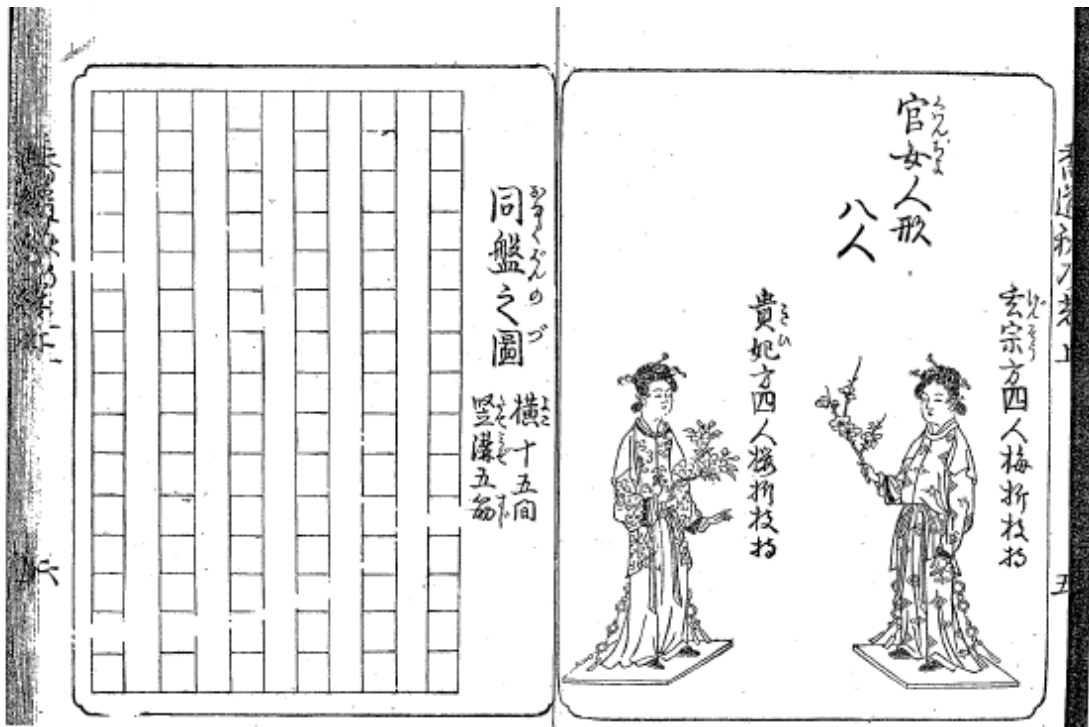
玄宗人形
一ツ [図]

○花軍香立物図

寸法米川流にしたがうべし。

香匙(こうすくい)の図

[図] [図]



玄宗方四人梅折枝持つ

[図]

官女人形

八人

貴妃方四人桜折枝持つ

[図]

同盤の図

横十五間
豎溝五筋

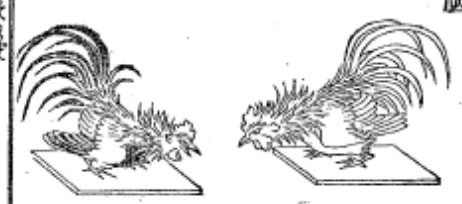
[図]

香立物

○ 闘雞香立物圖

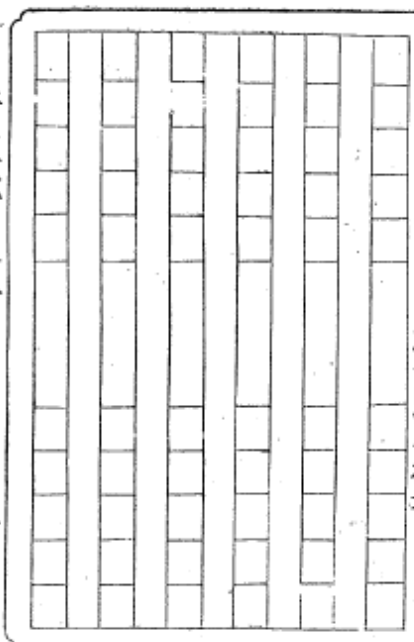
雞白五羽

同赤五羽



同盤之圖

豎溝五筋
横十間中分捕場



斗鶏

○ 闘鶏香立物圖

鶏白五羽

同赤五羽

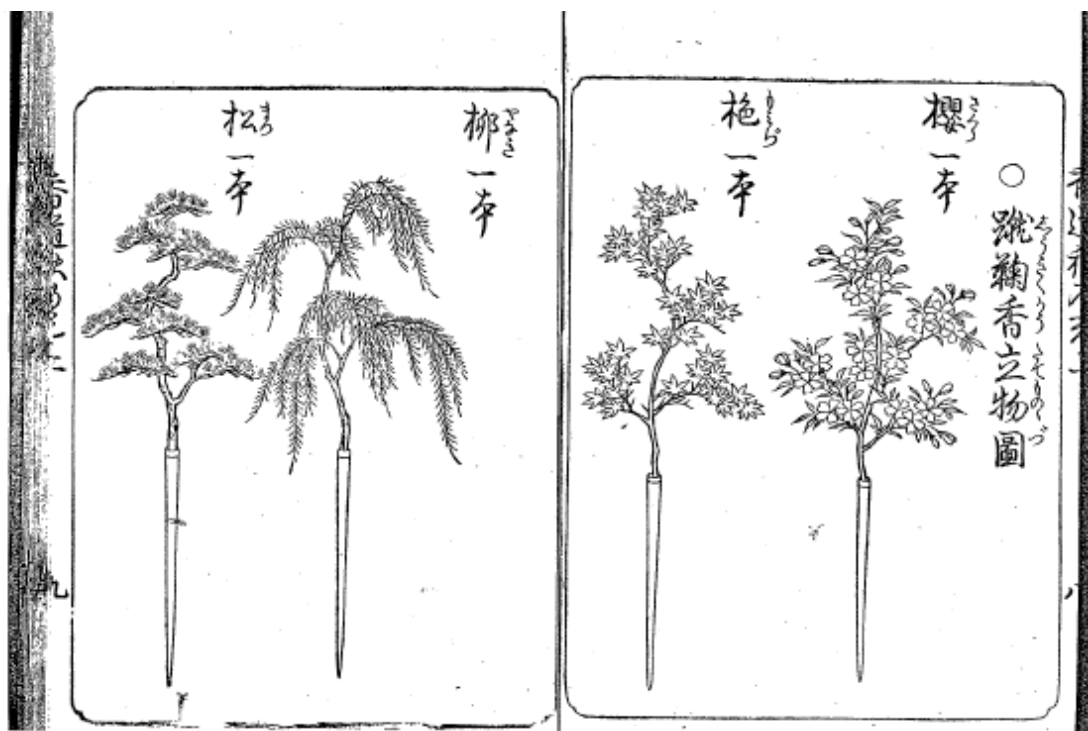
[圖]

[圖]

同盤の圖 豎溝五筋

横十間中分捕場

[圖]



松
一本
[図]

柳
一本
[図]

栂(もみじ)
一本
[図]

櫻
一本
[図]

○蹴鞠香立物圖



梶の木 一本 或いはなし

[図]

烏帽子

[図]

扇 十本

[図]

燕尾

[図]

鞠 一ツ

[図]

人形十人
公家法師
俗人法師は
燕尾と着と



人形 十人

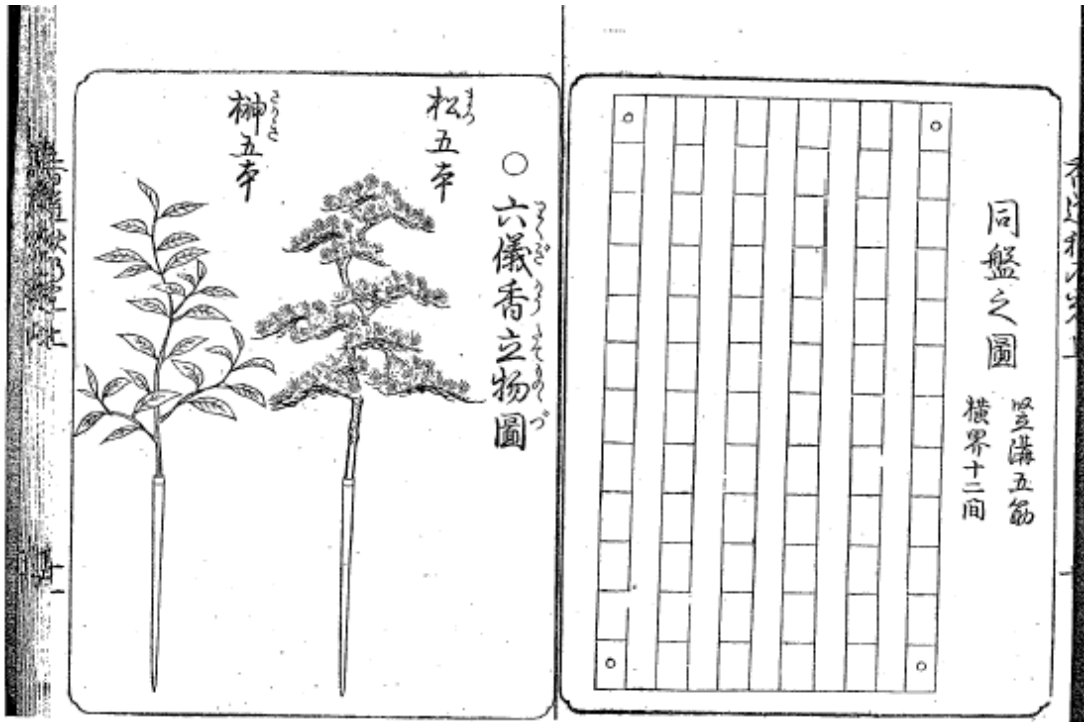
[図]

公家法師

俗人法師は

燕尾(えんび)を着す。

[図]



榎五本

松五本

○六儀香立物圖

同盤之圖

堅溝五筋
横界十二間

榎五本

[圖]

松五本

[圖]

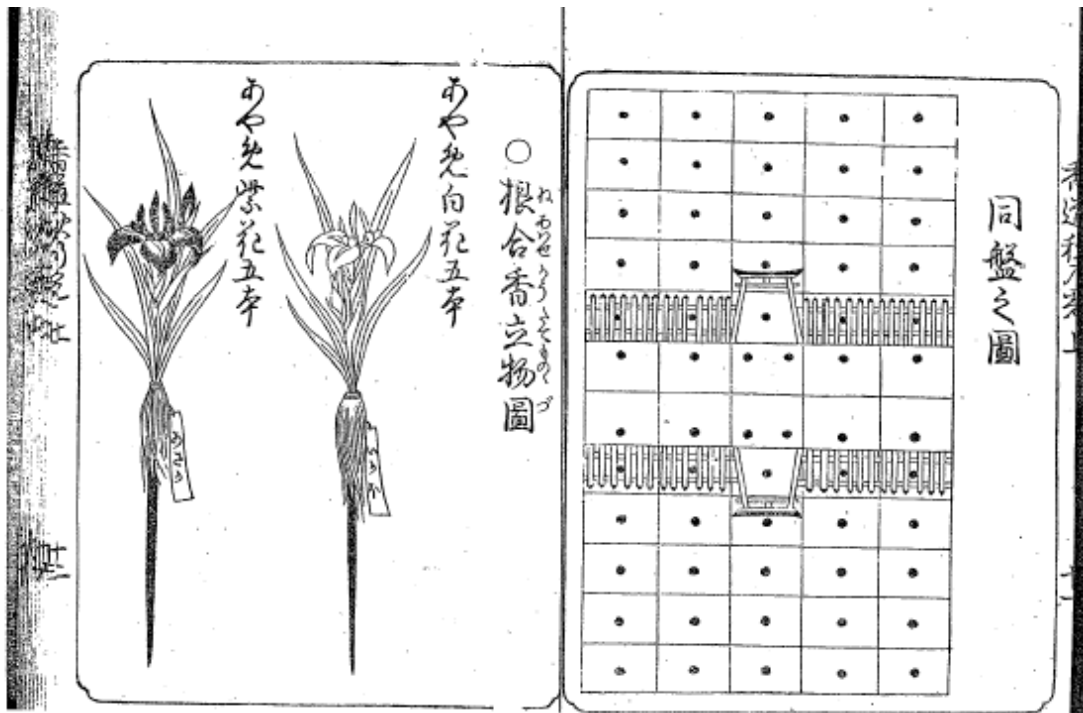
○六儀香立物圖

同盤の圖

堅溝五筋

横界十二間

[圖]



○根合香立物圖

あやめ白花五本

あやめ紫花五本

同盤之圖

同盤の図

○根合香立物図

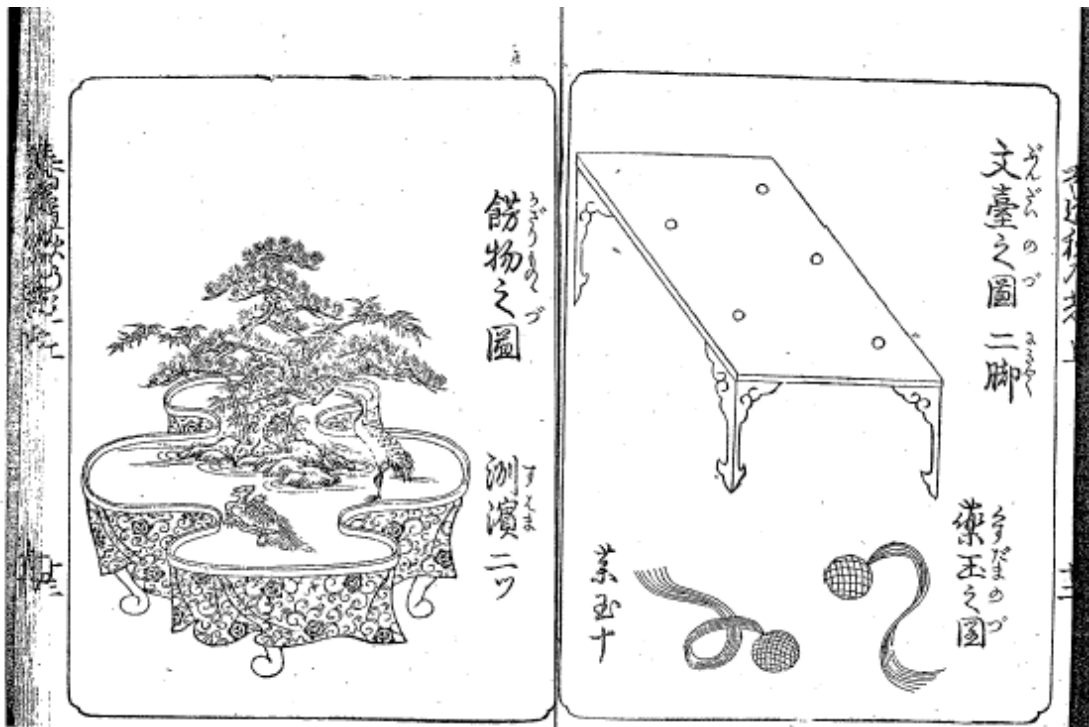
あやめ白花五本

[図]

あやめ紫花五本

[図]

[図]



文台之図 二脚

薬玉之図

薬玉十

飾物の図

洲濱ニツ

文台の図 二脚

[図]

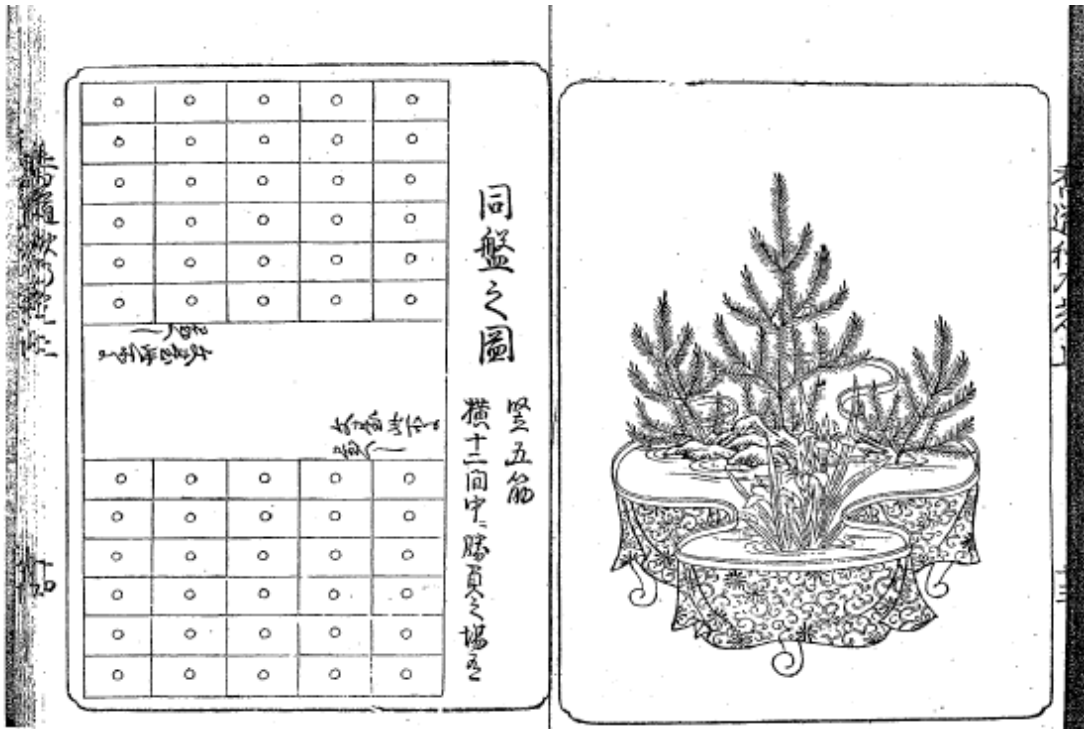
薬玉の図

[図]

薬玉十

飾物の図 洲濱ニツ

[図]



同盤之圖

縦五筋
横十二回中に勝負の場あり

○	○	○	○	○
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○
勝負の場				
縦五筋				
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○



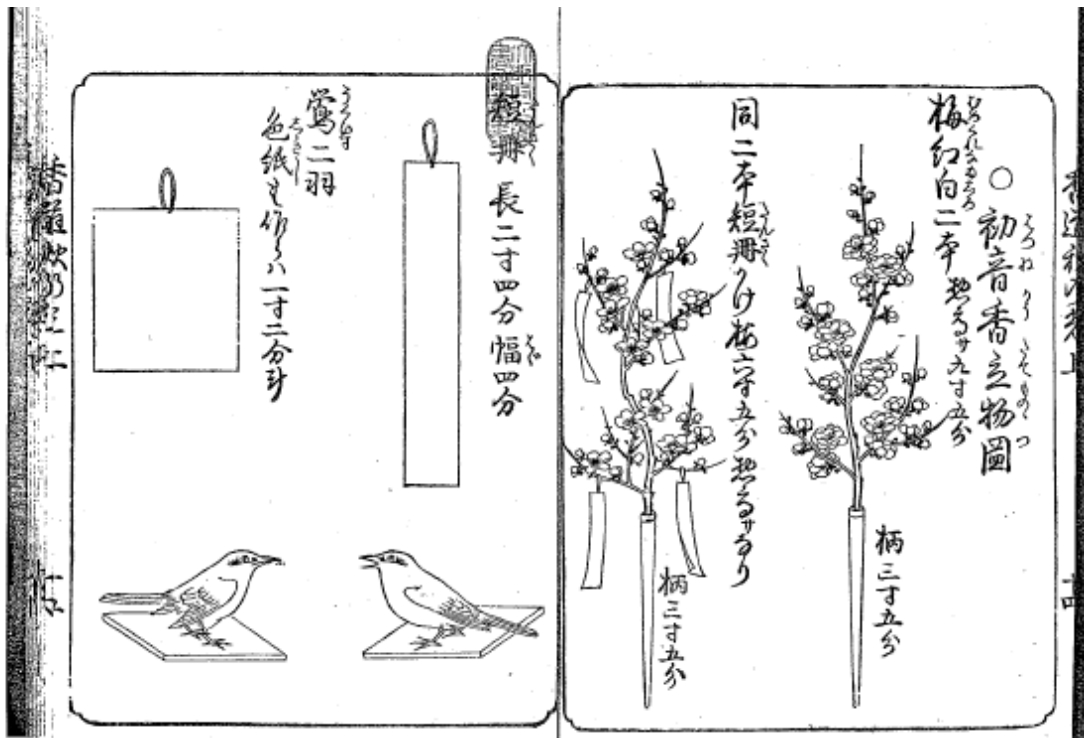
[図]

同盤の図

縦五筋
横十二回中に勝負の場有り。

文台此の所に
置くべし

[図]



○ 初音香立物図

梅紅白 二本 惣高さ九寸五分

柄三寸五分

[図]

同二本短冊かけ梅 六寸五分惣高さなり

柄三寸五分

[図]

短冊 長二寸四分 幅四分

[図]

鶯二羽

色紙も作らば一寸二分ばかり

[図]

[図]

短冊

長二寸四分 幅四分

鶯二羽

色紙も作らば一寸二分ばかり

○ 初音香立物図

梅紅白二本 惣高さ九寸五分

柄三寸五分

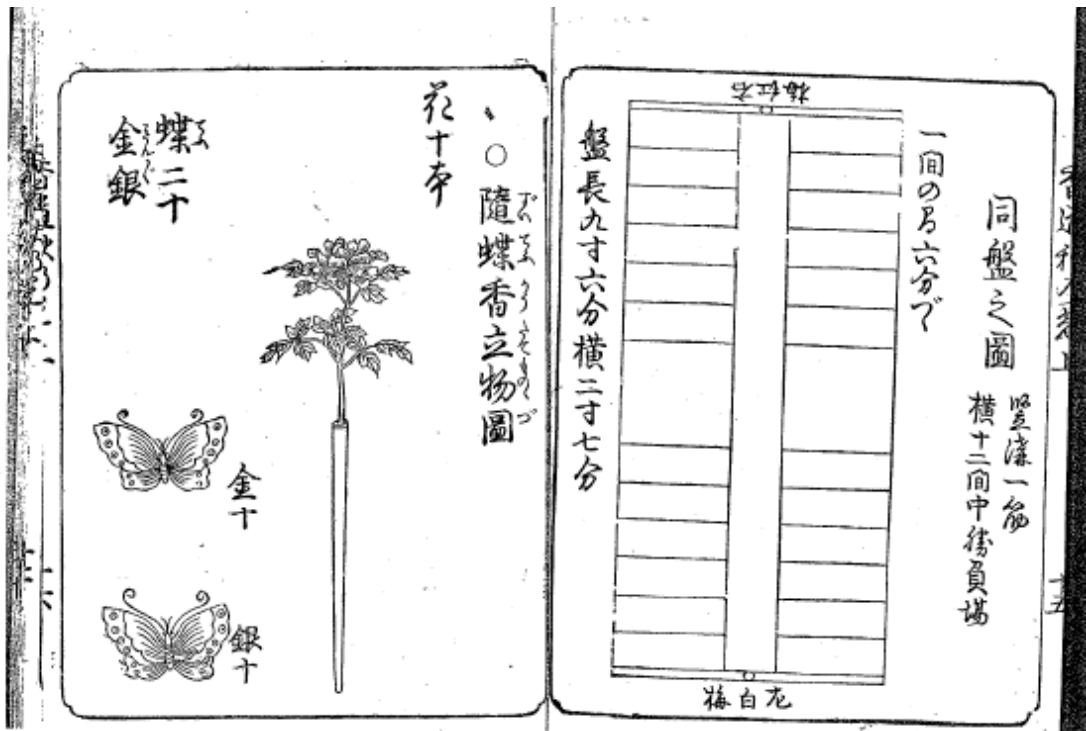
同二本短冊かけ梅 六寸五分惣高さなり

柄三寸五分

短冊 長二寸四分 幅四分

鶯二羽

色紙も作らば一寸二分ばかり



○ 随蝶香立物圖

同盤之圖
 盤長九寸六分横二寸七分
 一間の厚六分ず
 縦溝一筋
 横十二間中勝負場
 梅白左
 梅白右

花十本
 [図]

蝶二十
 金銀
 [図] [図]

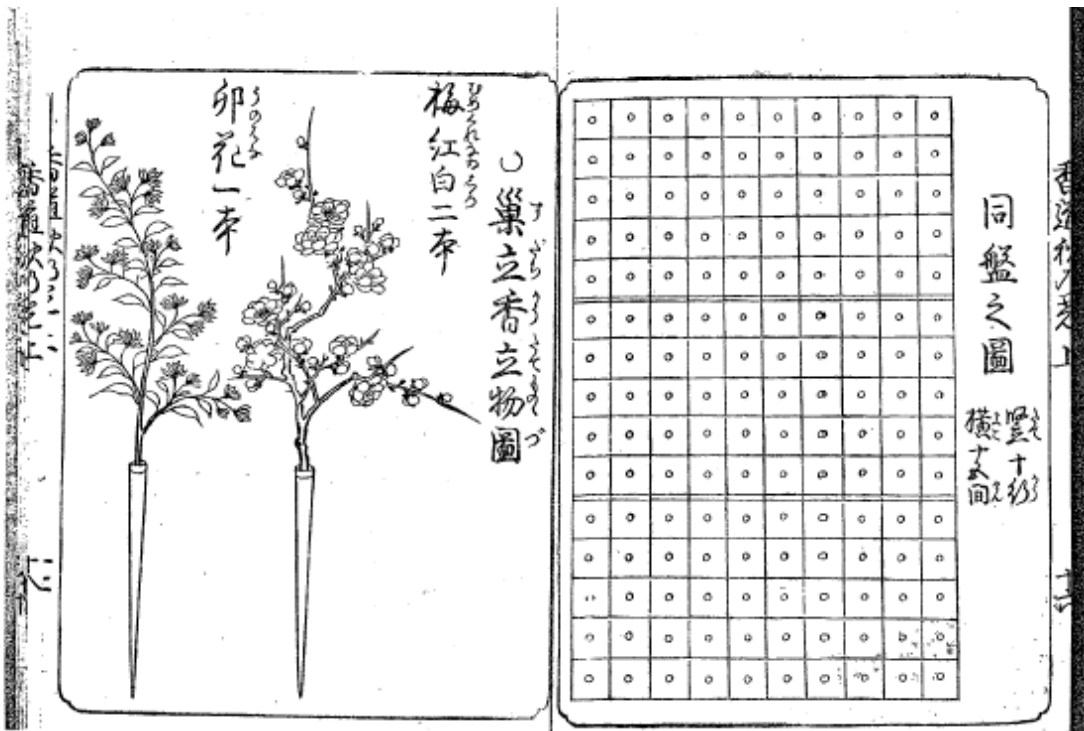
○ 随蝶香立物図

盤長九寸六分横二寸七分

同盤の図 縦溝一筋
 横界十二間中勝負場
 一間の間六分ずつ
 [図]

梅紅右

梅白左



同盤之圖

豎十行
横十五間

○ 巢立香立物圖
梅紅白二本

卯花一本

同盤の図

豎十行
横界十五間

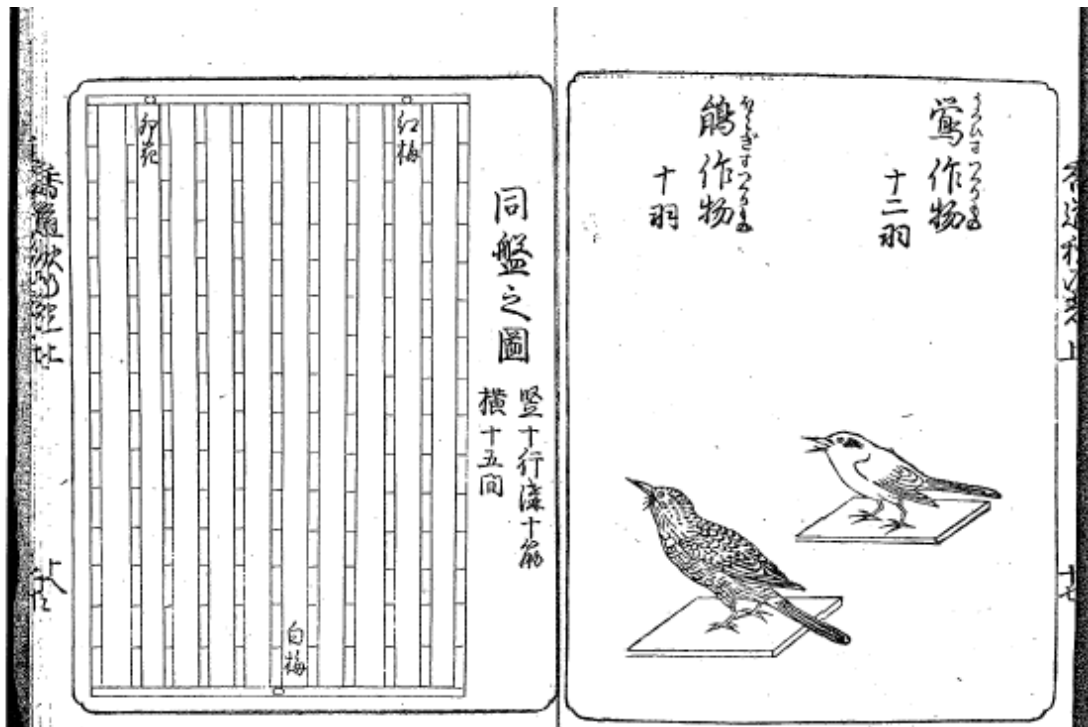
○ 巢立香立物図

梅紅白二本

[図]

卯花一本

[図]



鶇作り物

十二羽 [図]

鶇(ほととぎす)作り物

十羽 [図]

同盤之圖

豎十行溝十筋
横十五間

同盤の図

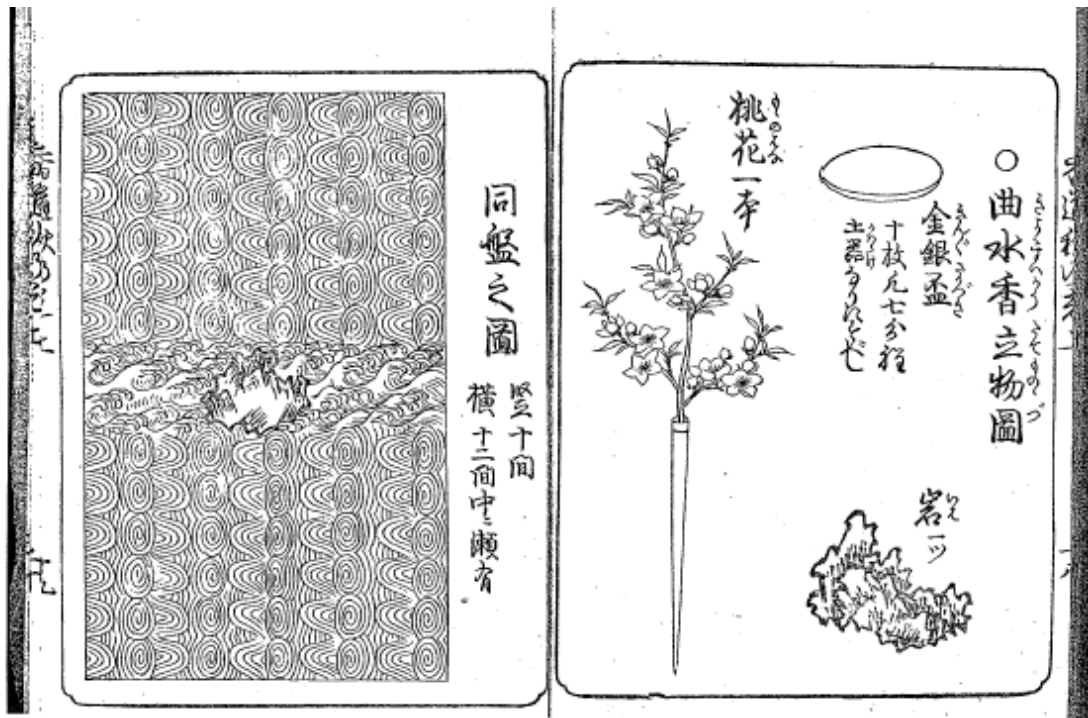
豎十行溝十筋
横十五間

紅梅

[図]

卯花

白梅



同盤之圖

豎十間
横十二間中に瀨有り

○曲水香立物圖

金銀盃

十枚 凡そ七分程
土器(かわらけ)なりにすべし

岩一ツ

桃花一本

○曲水香立物図

〔図〕金銀盃

十枚 凡そ七分程
土器(かわらけ)なりにすべし

桃花 一本

〔図〕

同盤の図

豎十間

横十二間中に瀨有り

〔図〕

岩 一ツ

〔図〕



○ 子日香立物圖

直衣烏帽子
人形二ツ
萌黄茶色

○ 子日香立物圖

直衣烏帽子
人形二ツ
萌黄茶色

大松二本

大松二本

[圖]

小松十二本

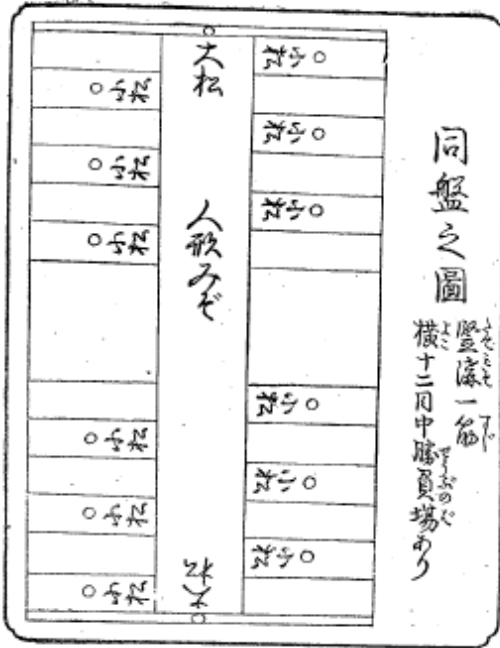
小松十二本

[圖]

香道具類

同盤之圖

盤一筋
横十二間中勝負場あり



○香道具細工所

香道具の細工は、常々是を手に
ざるに細工人の恰合物好むに
人の求めむ為の便りに京都の
細工人を左に記す

京寺町通姉小路西南角

香道具人形盤類

梅本薩摩

香道具類

同盤の図

豎溝一筋

横十二間中勝負場あり

[図]

小松
小松
小松
小松
小松
小松

大松
人形みぞ
大松

小松
小松
小松
小松
小松
小松

○香道具細工所

香道具の細工は、常々是を手なれ
ざるの細工人は、恰合(かつこう)物好き宜しからず、遠国(お
んごく)の人の求めむ為の便りに京都の
細工人を左に記す。

京寺町通姉小路西南角

香道具人形盤類

梅本薩摩

京東洞院四条上二町目西側
 野村藤右衛門
 京寺町通竹屋町下町東側
 唐木屋勘兵衛
 京大宮西入神明町
 京河原町姉小路西南角
 人形屋幸助
 同
 香道秋農光上終

京東洞院四条上ル二町目西側
 野村藤右衛門
 京寺町通竹屋町下ル町東側
 唐木屋勘兵衛
 京大宮西入神明町
 京河原町姉小路西南角
 人形屋幸助
 同
 香道秋農光上終り

【凡例】

- ① 句読点、「」、送り仮名等は適宜追記しました。
- ② 旧仮名使いを新仮名使いに適宜改めました。
- ③ 黒字の（）は、本文内に小文字で記された注記です。
- ④ 青字の（）は、筆者の補足です。
- ⑤ 赤字は、判読等に曖昧な点がある部分です。

令和二年二月
 『香筵雅遊』國井和裕